

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102442		
法人名	有限会社あいか		
事業所名	グループホームあいか		
所在地	岐阜市鏡島精華2-4-24		
自己評価作成日	令和8年2月6日	評価結果市町村受理日	令和8年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigvovocd=2170102442-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設以来看取りを行っている。近年病院ではなく住み慣れたホームで自然な看取りを希望される方も多く医療と連携しながら看取りを行うことができた。また外国人スタッフも増え、お互いの文化を尊重しながら施設の理念を理解しチームとして介護を行っていくために研修の工夫などを行うことができた。今後も外国人スタッフの増加も視野にしているためスタッフの資質、技能の向上を行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所玄関前の花壇には、季節の花が植えられており、利用者が季節を感じることができるよう工夫している。1階の温室にも目に優しい緑があり、穏やかな日が差し込んでいる。2階には、利用者が談笑できるスペースとして窓辺にソファが置かれ、外の景色を眺めながら、のんびりと過ごしている。事業所は、職員の資格取得を推奨し、専門職としての知識と介護技術力の向上を目指し、育成に努めている。働きやすい職場となっている。外国籍職員を含めて、すべての職員が様々な研修を受講できるようサポートし、職員同士は互いに自己啓発に努め、より良い利用者支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①一人一人のペースや自由を大切にする②住み慣れた暮らしに近い安らげる住まいや穏やかな雰囲気を大切にする③いつもの仲間やスタッフと一緒に暮らしの中でなじみの関係を築く④一人一人の残存能力を生かすケアを提供する⑤地域の人々や自然と触れ合いながら生活を送るを理念として掲げ事務所の見えるところにいつでも確認できるよう掲示している。	事業所の玄関に5つの理念を掲示し、職員をはじめ、家族や来訪者も確認できるようにしている。新人研修では、必ず理念について説明し、職員会議では、管理者が理念に基づいたケアとは、どんなケアかを職員と再確認し、常に理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が重度化し外出する機会が少ない。季節の良いときには喫茶店を利用するなどしている。スタッフはなじみのスーパーを使うなど引き続き交流を続けている。	自治会に加入しているが、商業地域のためか、地域主催の活動がほとんど行われていない。徒歩で行ける範囲の喫茶店のモーニングに行き、利用者は地域住民と会話しながら、交流することができている。地元中学生の職場体験を受け入れている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施が定期的に行うことができた。ご家族様の平日日中の参加に限られることもあり今後は週末開催なども柔軟に考えていきたい。	隔月に開催する運営推進会議には、利用者や家族、地域包括支援センターの職員が参加している。事業所の現状を報告し、参加者から意見を聞きながら、運営に活かしている。会議の議事録は玄関にスペースに置き、誰でも見ることができるようにしている。	運営推進会議は、事業所が提供しているサービス内容等を明らかにし、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを目的としている。地域の様々な人に、さらに参加を呼びかけ、意見交換できる場にしたい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは介護保険課のみならず生活福祉課、保健センターなどともかかわりを持ちながら取り組むことができた。	社会福祉協議会主催の研修に参加し、他の事業所の現状を聞いたり、意見交換を行なっている。また、市の担当部署に出向いたり、電話で相談して助言を得るなど、関係機関と連携しながら運営に活かしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。委員会の設置はあるが現在のところ実施した例はない。玄関の施錠については運営推進会議の議題に上げるなどして意見を交換している。また入居時には施錠についてご家族より同意をもらっている。	身体拘束適正化委員会や研修会を行い、拘束にあたる不適切ケアについて話し合い、拘束をしないケアを実践している。止むを得ず必要な場合は、家族と話し合い、同意を得た上で対処し、早期の拘束解除に努めている。現在、拘束を必要とする利用者はいない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を2回行うことができた。新人また外国人スタッフへの研修も外国語の資料を用いるなど工夫して行うことができた。また夜勤専門スタッフにも個別に研修を実施することができた。	虐待防止委員会と研修は、身体拘束適正化委員会と併せて開催している。職員のストレスや疲労が虐待に繋がることもあるため、管理者やケアマネジャーは、職員の働き方や表情に注視しながら声かけし、虐待発見時の対応も話し合っている。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり担当の弁護士などと連絡を取りながら活用している。また入居時の相談などでも地域の資源として紹介するなど行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はご家族ご本人に重要契約書を中心に説明し理解していただいている。十分に読むことができるよう事前にお渡しし時間をかけて読むことができる配慮をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け意見を伺う機会を設けている。またご家族へは面会時などになかなか来られないご家族へは電話などで状況を報告するなどし意見をいただく機会としている。	面会時には家族の意見を聞いたり、遠方の家族には電話で利用者の様子を知らせる際に、意見を聞いている。看護師資格を持つ職員が医療面の詳細な報告もしており、家族の安心感につなげている。家族の意見は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。	現在、利用者の様子については、面会時と電話のみの報告になっている。難しい状況もあると思われるが、全家族との連携が今以上にできるよう「便り」作成の検討等、家族に向けての情報発信に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年9回あるカンファレンスには代表管理者が出席し職員の意見を聞くなどしている。また普段より職員とは日常的に意見交換しておりコミュニケーションをはかっている。	管理者とケアマネジャーも現場で職員と共に利用者のケアを行っており、日常的に意見や提案を聞いている。外国籍職員ともコミュニケーションを図りながら自由に意見を言える関係を築き、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	今年度は男性育休の取得にも積極的に行うことができた。働き方も柔軟に勤務時間を調整するなど働きやすい環境づくりができた。	職員が希望する働き方ができるよう、職場環境を整えている。有給休暇はシフト作成の際に希望を聞き、長期休暇の要望にも応えている。休憩時間は、利用者から離れて畳の部屋で取ることができる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を設け各自の課題に沿った研修を行っている。研修に参加できるよう休日を配慮するなど研修を受けやすい環境づくりを行っている。今年度は2名ケアマネ研修、1名介護福祉士合格、2名実践者研修を修了することができた。	年間研修計画表を作成し、年齢、勤務年数、経験に関わらず、希望の研修を受講できるようにしている。シフト調整を行ない、研修費用の補助もある。資格取得後は昇給等で、モチベーションアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会などの情報提供を行い同業者との交流する環境を整えている。特定技能のスタッフへは他施設との勉強会へ参加のための情報交換や相談できる機関との連携をとることができた。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外国人スタッフと一緒に本を読んで日本語を教えてもらったり、懐かしい歌と一緒に楽しんだりと教えてもらう機会が多くある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望をおたずねしながらまた困難な場合はご家族からお話を伺ったり今まで生きてきた生活史などを参考にしながら思いを把握している。また今までの主治医や関わりのあった親族やケアマネさんから情報を得るなど把握に努めている。	利用者の思いや希望を丁寧に聞きとり、支援に取り入れている。食事に関する要望が多く、メニューに取り入れている。利用者の態度などで気づいた事は、申し送りノートや個別記録に記入し、職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方法については3か月ごとにモニタリングを行い修正している。カンファレンスでは全員で意見を出し合い目標の修正やケアの方法の見直しなどを行っている。	介護計画作成時には、ケアマネジャーが利用者と家族の要望を聞き、かかりつけ医や訪問看護師の意見も参考に、職員間で話し合っている。様々な意見を反映させた介護計画とし、作成した介護計画書は家族に伝え、意見を聞いている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。また課題に対する取り組み、結果をわかりやすく表記する工夫を行いすぐに記録できるようにしている。来年度は紙媒体からパソコン入力での記録を検討しておりより時間短縮できて介護に集中できる環境を整えていきたい。	毎日の個別記録は手書きで行い、職員は記録を確認してから現場に入っている。特に注意をすることは、申し送りノートにも記入し、伝え漏れの無いようにしている。タブレット端末による入力を取り入れ、簡単に記録できて情報を共有できる方法を検討中である。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望の美容院への送迎や、買い物支援など柔軟な対応を行っている。また家族に代行して病院付き添いなどを行っている。	急遽、受診が必要となった場合や家族対応が難しい時は、管理者が対応している。馴染みの美容院への送迎や買い物支援なども、柔軟に対応している。面会時間については、家族がいつでも面会できるようにしている。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で参加できるサークルなどの情報を共有しながら社会参加できる方法を考えている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは入居前の病院が継続してかかることのできるよう調整を行っている。また主治医を変更する場合には情報の共有などを行いスムーズに移行できるよう支援している。	入居前のかかりつけ医の継続を可能とし、往診受入れもできることを説明し、本人・家族が選択している。協力医は月2回の往診があり、訪問看護師とも連携している。日常の健康管理は事業所の看護師が担い、利用者が適切に医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には利用者の情報提供を行いスムーズに入院できるようケアマネが実施している。また退院調整会議に出席するなど退院時のサポートもおこなっている。	入院時の医療機関との手続き等はケアマネジャーが行い、利用者の情報提供を行っている。早期退院を目指して、病院とも相談しながら、事業所でリハビリができるよう受け入れ体制を整えている。退院後には生活リハビリを取り入れながら、支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について入居時から看取りについての説明をしている。ご家族へはホームでできることリスクなども含め説明しご家族、本人、主治医と相談し支援を行っている。近年社会状況の変化から看取りを希望されるご家族も多くなってきている。	事業所で看取り支援が出来ることを、利用者と家族に説明している。家族も居室で職員と共に看取りを行うことができる環境にある。本人の状態に合わせ、家族と話し合いながら支援に努めている。看取り記録を基に振り返りを行いながら、全職員が自信を持って看取りを行える体制を整えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には応急手当などの訓練を行いイメージトレーニングなどを行っている。来年度は順次消防署での緊急時対応の研修を実施予定。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は今年度も4回実施した。水害の避難訓練、夜間を想定した訓練も2月中に実施予定している。備蓄の食品の期限などの見直しも定期的に行うことができた。	水害や夜間の火災など、様々な場合を想定した災害訓練を実施している。近隣住民にも依頼し、参加を得ている。薬局や周辺のコンビニの協力もあり、薬のストックを準備している。備蓄品のおかゆなどは、利用者が試食し感想を聞いている。発電機も設置している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。とくに排せつに関してなど本人のプライバシーなどに気を付けて支援するなど留意している。	接遇研修を行なっているが、不適切な言葉遣いがあった場合は、管理者がその場で注意している。また、グレーゾーンに関する研修も行い、職員にも、新たな気づきの発見があり、意識付けの継続を図っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定できるよう本人の能力に合わせた働きかけを考慮し実施している。着替えの場面や食べたいものなど本人の能力に合わせて声掛けなどを行っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に食事時間を配慮したり、食事の場所を選んでもらったりするなどその人の希望を大切にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備において野菜の皮むきなどを一緒に行ったりしながら楽しんでいる場面もある。温かい食べ物を温かく提供できるよう電子レンジを設置するなど配慮している。	家族から差し入れ食材なども活用し、三食手作りで提供している。1階で調理し、2階のユニットへも運んでいる。時には温め直して、利用者に合った食事形態で対応している。正月やひな祭りなど季節のイベント食も提供し、食の楽しみを増やしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた家庭食を手作りにて提供している。季節ものを大切にしている。またミキサー食やきざみ食など食事形態を工夫している。水分も定期的に補給してもらえるようにしている。タンパク質がなかなか取れないためおやつに高たんぱくのゼリーを追加するなど工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。また入れ歯の調整をもらったりと定期的に歯科往診をしていただき口腔内の清潔保持を行っている	毎食後の歯磨きは利用者個々で行い、見守りで支援している。最後に磨き残しが無いか確認している。歯科医師の検診や、歯科衛生士の指導を受け、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かり、事業所で管理している。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し定時ではなくその方にあった排せつケアを行っている。利尿剤や尿疾患なども把握しながらトイレでの排せつができるだけ行えるよう支援している。トイレの場所がわかるよう目印をつけるなど自立への支援を行っている。オムツの試供品にて心地よいオムツへの変更などを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	汚染があった場合などには曜日時間に関係なく清潔が保たれるよう支援している。一人一人の個別浴としている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた休息の支援を行っている。お昼寝の時間を確保したり、薬に頼らない入眠支援を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関して一人一人の内服状況が把握できるようカルテの工夫を行っている。また誤薬のないよう4度のチェックを重ね内服時には2人以上で確認するよう事故の防止に努めている。	薬剤情報はカルテに記録し、職員間で共有している。薬を保管場所から出す時、服薬支援時はすべて職員2名でチェックし、飲み終えるまで見守っている。誤薬や飲み忘れ、落薬を無くし、事故防止に努めている。薬の変更時は医師の説明を聞き、全職員で共有している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみなことを把握し気分転換が図れるよう工夫している。イベントなどを開催し歌が好きな方にはカラオケなどをしてもらうなど楽しみを工夫している。またお花づくりが好きな方には庭の手入れなどをお任せしている。レース編みなどを行っている入居者さんもあり素材の提供などしている。	利用者との会話や家族からの情報で、楽しみや得意な事を把握し、生活の中に組み入れるようにしている。花壇の手入れ、正月の書初め、カラオケなど、毎日の暮らしの中で継続できるようサポートしたり、新たにチャレンジできるよう声かけをするなど、その人の張り合いや楽しみにつなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には玄関先でおやつを食べるなど工夫した。また施設だけでなく入居時よりご家族の支援をお願いし実施している。	玄関に椅子を置き、お茶やお菓子の時間を楽しんだり、花壇の花を眺めながら、外気に触れる機会を作っている。家族には、利用者との外出や外泊ができることを伝え、気分転換を図るための協力を依頼している。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族管理のことがほとんどであるが、能力に合わせた支援を行っている。スーパー、美容院への外出などでは本人管理できる場合には実施してもらうなど支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望などがあれば自由にできる環境を整えている。コロナ急増時にはオンライン面会を実施した。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では不快とならないようににのいの工夫や温度、光などを留意している。また季節の花を飾るなど心地よく生活できるように配慮を行っている。常時換気を行い感染症対策を実施している。	共有空間には、利用者の作品である絵画や季節の花を飾っている。空気清浄機を設置して適切に管理しながら、自然換気も行なっている。1階の温室では植物を育てている。2階には、窓辺にソファが設置されており、利用者が集まって談笑できる居心地の良いスペースとなっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではリビングを中心に過ごせる居場所を提供している。2階では日当たりの良い場所にソファを置くなど心地居場所を提供している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今までの生活でなじみのあるものを使用しリラックスできる空間づくりを行っている。家族の写真を飾ったりカレンダー、風景の写真などを飾るなど安心できる環境づくりを考えている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるようバリアフリーの室内とし安全に生活できるようにしている。またトイレの場所など混乱しないよう大きな文字にするなど工夫している		